

Case Study

アバナードが「Avanade Flexible Support」 により、ヤンマーホールディングスの 市民開発のスキル向上を支援

ヤンマーホールディングス株式会社



「アバナードにはトレーニングメニュー作りから頻度、形態に至るまで、こちらの要求事項に応じてメニューをカスタマイズ、海外を含めて展開してくれた点に大きな魅力を感じています」

ヤンマーホールディングス株式会社
デジタル戦略推進部 DX推進グループ 課長 山根 寛司氏



「アバナードはマイクロソフトのソリューションに対する専門性、スキルの高さを有しているだけでなく、こちらが実現したいことを丁寧に聞いてくれ、提案してくれる提案力や対応力が心強かったです」

ヤンマーホールディングス株式会社
デジタル戦略推進部DX推進グループ 専任課長 世森 達也氏

「Avanade Flexible Support」により、ローコードツールのトレーニングや、市民開発の文化醸成を支援

【背景】

ヤンマーホールディングスは、未来につながる持続可能な資源循環型社会の実現に向け、ブランドステートメントとして“A SUSTAINABLE FUTURE—テクノロジーで、新しい豊かさへ。—”を掲げています。同社のデジタル戦略について、同社デジタル戦略推進部DX推進グループ課長山根寛司氏は「業務効率の改善も含め、デジタルを通じてしかお客様に提供できない新たな付加価値を提供する事」と話しました。

具体的には「ITインフラ・セキュリティの強化」「データ基盤の再構築・モダナイゼーション」「ローコード、RPAなどを活用した草の根DXの展開」「データ活用・分析」などにより、社内の業務改革を行うことを重点的に取り組んでいます。

同社デジタル戦略推進部DX推進グループ専任課長世森達也氏は「ビジネス環境の変化にスピーディに対応するためには、レガシー化したITシステムをモダナイゼーションすることに加えて、草の根DX活動で展開するローコードツールを活用した市民開発が不可欠になると考えている」と話しました。

同社では利用者同士が情報発信や躓いている点を相談できる場としてコミュニティ活動を立ち上げ、2022年7月頃より本格的に活動を開始しました。活動内容としては、悩みを共有して解決策を検討できる場の提供や、社内で開発して活用されているアプリの事例紹介などを通じて、利用者全体で情報交換を行っています。

山根氏も「市民開発には現場の業務改善・DXを自ら推進していくコミュニティ活動が重要だ」とします。「DXを推進する

際に、実際にオペレーションの効率化、最適化に取り組むのは現場で業務に携わる人だというのが市民開発の出発点。そこに本社主導で働きかけるのには限界があり、現場の人が『自分たちの課題を解決し業務を変えていく』文化を醸成することが大事だと考えた」というのがその理由です。「当初、20人位からスタートしたものが、今では口コミで350人位まで拡大してきた」ということです。

同時に、コミュニティ活動を進める上での課題も見えてきました。世森氏は「ヤンマーグループは国内外に事業体が非常に多く、それぞれの文化も異なる」と述べた上で「コミュニティを続ける上で、特に、文化醸成の面では、誰でも気軽に参加できるよう、初心者向けのトレーニングや、気軽に質問できる土台作りの必要性を感じた」と話しました。

【ソリューション】

そこで、同社はアバナードに「コミュニティに価値を生み出すための取り組み」について相談を行いました。世森氏は「一番の価値提供はスキル向上のためのトレーニングと考え、様々なベンダーに話を聞いて、我々の希望に合致する提案をしてくれたのがアバナードだった」と話します。

アバナード側では「[Avanade Flexible Support](#)」を活用し「Microsoft Power Platform（以下、Power Platform）」関連のトレーニングなど、要望に合わせたトレーニングを提供する提案を行いました。そして、パートナーとしてアバナードが指名された決め手となったポイントは、大きく3つありました。

1つ目は「柔軟性」です。「Avanade Flexible Support」は文字通り「こちらのニーズに対して柔軟な対応が可能で、型にはまったトレーニングでなく、拡張性、柔軟性を持った教育が可能だと考えた」ということです。

2つ目は「海外対応」。同社の海外売上高比率は約6割を占めており「日本だけでなく、グローバルでのDX推進が必須」（世森氏）でした。そのために、教育についても「日本で展開するカリキュラムと同じレベルで、海外拠点で展開できる」点が決め手となりました。

そして、3つ目が「サービス提供の質の高さ」です。マイクロソフトのソリューションに対する専門性、スキルの高さだけでなく「こちらが実現したいことを丁寧に聞いてくれて、提案してくれる提案力や対応力にも魅力を感じた」と世森氏は話しました。

一方、市民開発の基盤として「Power Platform」を利用する狙いについて、山根氏は「ヤンマーグループは業務アプリケーションとしてMicrosoft 365を活用しており、同じマイクロソフトのソリューションとして、大部分の社員がすでに使える環境を持っていた」を挙げます。

また、市民開発に重要なのが「作成した成果物をすぐに共有できることだ」とも述べます。「現在の業務を変えたいときに、すぐにできる環境が整備できていることが重要です。Power Platformは既存のマイクロソフトのライセンスで基本的な機能が利用できる点に魅力を感じた」ということです。

2022年9月から実施された「Avanade Flexible Support」による具体的な支援内容は大きく次の3点です。

1点目は「Microsoft Power Apps（以下、Power Apps）」「Microsoft Power Automate（以下、Power Automate）」に関する初級者、中級者向けトレーニングです。世森氏は「月1回、継続性を重視したトレーニングで、初級者向けは、承認ワークフローなどの業務を例に、入門的な内容を学習。中級者向けは、より実業務を意識したアプリワークフローのカスタマイズなど、より深掘りした内容となっている」と説明します。

2点目は「Microsoft Power BI」に関する初級者トレーニングです。世森氏は「デスクトップを使ったダッシュボードの作成など、初心者には有用な基礎的なトレーニングに重きを置いている」と話します。

そして、3点目は「海外メンバー向けのトレーニング」です。世森氏は「海外メンバー向けに、Power AppsとPower Automateに関して初級トレーニングを行うものだ」と述べました。トレーニングメニューについて、アバナードのBusiness & Technology Integration 石田 万由子は「トレーニングはオンラインで行い、Power Platformを触ったことがない人

向けに、業務改善に役立つ内容を中心に、実際に手を動かすハンズオン形式の内容となっている」と説明します。

この点について世森氏は「ヤンマーグループは国内外に多くの事業体があり、1カ所に集合して研修を受けるのが難しい」とした上で「トレーニングは、2日間で合計4時間、受講者には予め時間を空けてもらい、オンラインで参加してもらう形とした。継続的にトレーニングを実施するにはそれが最も効果的だと考えた」と説明しました。

【成果】

トレーニングの受講実績について、世森氏は「ハンズオントレーニングという性質上、参加できるメンバーは1回につき8名まで」とした上で「2022年9月からこれまでに延べ100名以上が受講した」と話しました。そして「興味はあるがPower Platformに触ったことがない初心者を初級者に底上げし、チームでコラボレーションしながら開発を進められる中級者の育成まで、体系的なカリキュラムが用意できた」と話しました。

毎回、受講者にはアンケートを取っており、内容について好意的な声が多く寄せられているということです。

山根氏は、アバナードによる支援の効果について「メニュー作りから一緒に、柔軟に対応してくれた」点を挙げ「トレーニングの頻度や形態に至るまで、こちらの要求事項に応じてメニューをカスタマイズ、海外を含めて展開してくれた点に大きな魅力を感じている」と評価しました。

実際に「Power Apps」「Power Automate」などを使った業務改革の事例としては、生産現場において紙ベースの業務を改善した事例として、紙で起票していた棚卸業務のデジタル化・ペーパーレス化を実現するため、業務アプリケーションをローコードで開発した事例などが挙げられます。

世森氏は、今回のコミュニティ活動の成功要因について「毎月、継続的なトレーニングが提供されて、受講できることが安心感につながり、コミュニティに参加したいという動機づけにつながっている」とし「海外の拠点も現地任せにせず、一緒に取り組んでいく体制が構築できたことが成功につながった」と話しました。

また、山根氏は、コミュニティの成果を発表する「社内への事例共有」をポイントに挙げます。これは「担当者の取り組みについて、オンラインの事例発表会を企画し、毎回2人程度に登壇してもらう」ものです。これにより、担当者にはモチベーションアップ、社内には、取り組みの周知とさらなるコミュニティへの参加の促進といった、人をつなぐ効果がありました。山根氏は「これは社内DXを推進す

る上で重要なことだ」と話しました。

今後について、世森氏は「初心者から初級者、中級者へ育成していくことがコミュニティの価値だという信念のもと、さらに初心者、初級者にコミュニティに参加してもらい、また、コミュニティが分断しないように、たとえば、超初心者向けのイベントや、事例発表会などの成功体験の共有を、今まで以上に取り組んでいきたい」と話します。

そして、アバナードには、今後も品質の高いトレーニングを提供してもらい、さらなる協力関係を継続していきたいとコメントしました。

また、山根氏は、社内DXに課題を感じている企業に向けて「現場主導で改革を進めていくことで、社内に意欲的な人材がいることが発見することができた」と総括し「現場支援の仕組みを構築していくことが重要だ」と話しました。

社内ポータル内のDXコミュニティには現在、800人位の参加者がいるとのことで「社内に情報発信しながら、DXの取り組みに興味を持ってもらう環境作りが大事だと感じた」と山根氏は話します。そして、アバナードには、トレーニングは継続しつつ、草の根DXを加速するようなアイデアや情報提供などの支援を、今後も継続してほしいと締め括りました。

ヤンマーホールディングス株式会社

1912年に大阪で創業したヤンマーは、1933年に世界で初めてディーゼルエンジンの小型実用化に成功した産業機械メーカーです。「大地」「海」「都市」のフィールドで、エンジンなどのパワートレインを軸に、アグリ、建機、マリン、エネルギーシステムなどの事業をグローバルに展開。環境負荷フリー・GHGフリーの企業を目指し、顧客価値を創造するソリューションを提供しています。未来を育むヤンマーの価値観「HANASAKA」を基盤に、ブランドステートメントとして掲げる“A SUSTAINABLE FUTURE”を実現します。

ウェブサイト：<https://www.yanmar.com/jp/>

*記載されている会社名および製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

アバナード株式会社

〒106-6009 東京都港区六本木1-6-1

泉ガーデンタワー

ウェブサイト：<https://www.avanade.com/ja-jp>

【アバナードについて】

アバナードは、マイクロソフトのエコシステムにおいて、革新的なデジタル、クラウド、アドバイザリーサービス、各業界向けソリューション、デザイン主導のエクスペリエンスを提供するリーディングプロバイダーです。26カ国、60,000人のプロフェッショナルなスタッフが、顧客、その従業員、またそのお客様に、素晴らしい体験・影響という“真のヒューマン インパクト”を日々もたらしています。

アバナードは、親会社のアクセンチュアと共に、マイクロソフトのGlobal SI Partner of the Yearを他社よりも多く受賞しています。また、最も多くのマイクロソフト認定資格(60,000以上)と18のゴールドレベルのマイクロソフト技能を持ち、企業の成長と困難な課題の解決を支援する稀有な企業です。私たちは従業員を第一に考え、誰もが自分らしさを発揮できるインクルーシブな職場環境の提供に尽力しています。また、責任ある企業として持続可能な世界を構築し、恵まれない環境にある可能性を持った若者の支援もしています。

アクセンチュアが筆頭株主であり、2000年にアクセンチュアとマイクロソフトによって設立されました。

*記載されている会社名および製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。



Do what matters